

1995年1月17日に発生した淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震により、阪神地域を中心に家屋の倒壊、火災、液状化など都市における甚大な被害が発生した。本地震では丘陵地における盛土造成地が宅地造成前の谷底を滑り面として、盛土造成地全体が斜面下部方向へ移動する滑動崩落が100箇所以上確認された。図-1は、手前の電柱が位置する地山に対し奥の家屋が位置する盛土造成地が写真右から左方向へ数メートル移動した事例である。また、谷埋め型大規模盛土造成地は斜面下部へ滑るように移動するため、盛土末端部では圧縮されたようなクラックが生じ、盛土頭部では引っ張られて出来るクラックが現れる。



図-1 盛土造成地の変動に伴う被害（西宮市）



盛土末端部が隆起し、
道路に生じた段差(写真奥が盛土)

図-2 盛土末端部におけるクラック（西宮市）



盛土頭部に
生じたクラック

図-3 盛土頭部に生じたクラック（西宮市）